

看護師の遠隔学習を支援するオリエンテーションの設計

Preparing for Distance Learning: Designing An Online Orientation for Nurses

八木 街子^{*,**} 鈴木 美津枝^{*} 村上 礼子^{*}
 Machiko Yagi^{*,**} Mitsue Suzuki^{*} Reiko Murakami^{*}
 都竹 茂樹^{**} 中野 裕司^{**} 鈴木 克明^{**}
 Shigeki Tsuzuku^{**} Hiroshi Nakano^{**} Katsuaki Suzuki^{**}
 自治医科大学^{*} 熊本大学^{**}
 Jichi Medical University^{*} Kumamoto University^{**}

＜あらまし＞ moodle を用いた看護師対象の遠隔学習を支援するために、オリエンテーションを設計・改善した。改善後は不規則勤務かつ様々な学習経験を持つ学習者であっても、フォーラムの活用、課題提出、相互評価が実施できるようになり、計画的な受講の促進に役立つことが示唆された。

＜キーワード＞ 遠隔教育・学習、学習支援、生涯学習、看護教育、moodle

1. はじめに

A 大学看護師特定行為研修センター（以下、A センター）では、2015 年 10 月から特定行為に係る看護師の研修（以下、特定行為研修）に e ラーニングなどの遠隔教育を用いている。A センターの学習者は全国の医療機関に勤務する看護師で、年齢層は幅広く、看護教育制度の違いにより学習経験が多様である。加えて、パソコン操作が苦手、遠隔教育の経験がないものも多い。春山（2016）は、特定行為研修の受講者層に対する支援体制として e ラーニング使用マニュアルの整備や連絡手段の確保などの学習環境の整備が必要であると述べており、A センターでも開講にあたりマニュアル作成の準備を行った。加えて、開講後のスムーズな学習開始と継続のためのオリエンテーションを 2 構成で実施した。1 つは、唯一の来校日に 2 時間程度、対面にて学内メールの設定等を説明する対面オリエンテーションである。もう 1 つは、学習管理システムとして利用している moodle に関する操作に加えて、後続科目の学習をイメージすることを目的とした moodle を利用した e ラーニングコースである。A センターでは、

このコースを学習状況の分析を実施し、評価した上で、必要な支援が提供できるように設計の修正を実施している。

医療職の生涯学習の観点から、看護師が e ラーニングで学習する機会は今後も増加することが予想される。本研究では、看護師に対する e ラーニングの効果的な導入に必要な支援について、オリエンテーションの実施で得られた知見をまとめる。

2. 学習目標と学習者分析

オリエンテーションにおける e ラーニングコースの学習目標を表 1 に示す。コースではオリエンテーション後に実施する受講科目の学習に必要な moodle 操作、moodle 上での意見交換や学習計画の立案ができるように学習内容を設定した。学習者は 27～56 歳（平均 40 歳）で、専門学校卒業から大学院修了まで学習経験はさまざまであった。学習者の 3 割が e ラーニングの経験があった。しかし、経験のある e ラーニングは、双方向性のある e ラーニングというよりも、聴講や問題を解くといった一方通行型の個人の学習

表 1 オリエンテーションにおける e ラーニングコースの学習目標と学習内容

学習目標	学習内容
後続科目の学習に必要な moodle 操作ができる	フォーラム（ニュースフォーラム閲覧、フォーラム利用）、ファイル閲覧（MSword, PDF）、動画閲覧、小テスト実施、課題提出、相互評価、アンケート回答を実施する
教員・研修生と意見交換ができる	フォーラムや相互評価の際に、教員・研修生と意見交換をし、情報を共有する
学習管理機能を使用する	Home 画面のカレンダーで提出期限を確認する。チェックボックスでの学習履歴確認をする。
学習計画を立案することができる	配布されたシラバスや教育内容をもとに学習計画を立案する

が主であった。Aセンターのeラーニングでは、moodle 上での学習者間の情報交換、相互評価を必須としており、受講前に練習の機会を設ける必要があると考えた。また、看護師は不規則勤務であること、ライブイベントの多い世代であること（Havighurst, 1972）から、過負荷にならないように配慮をする必要があると考えた。

3. オリエンテーションの変遷

学習目標と学習者分析の結果をもとに作成したオリエンテーションの内容とその結果を述べる。内容の変遷を表2に示す。

3. 1. 2015年10月～2016年4月

オリエンテーションでは、時間的負担を考慮し短期間で学習を優先した。そのため、開講前1週間前に実施し、フォーラム、ファイル閲覧、課題提出、小テスト等の実施等の最小限のコンテンツについて学習できるように設計した。その結果、受講開始後は、操作上のトラブルや質問をメンターが電話で個別対応することになった。また、「課題提出」「相互評価」についての質問が多かった。これは、学習中のトラブルに関する問題解決方法がmoodle上に明示されていなかったこと原因だと予想された。「moodleの機能に慣れるのが大変だった」という意見も多く聞かれた。また、計画的な受講が難しく、学習者60名中12名（20%）が当初の受講計画を延長した。

3. 2. 2016年10月～2018年4月

学習者背景を踏まえ、電話ではなく非同期で確認できるフォーラムの活用を習慣化し経験させるため、オリエンテーションに関する質問にフォーラムを使うよう促した。フォーラムの利用は、トラブル内容とその回答の共有にもつながる。また、トラブルが多かった「課題提出」「相互評価」の練習の機会を設け、学習計画に関しても表2. オリエンテーションコース内容の変遷

moodleの学習管理機能を紹介し、学習進捗が俯瞰できることを伝えた。加えて、FAQとしてこれまで質問が多かった内容をコース内で紹介し、自己解決を促した。トラブル対応は、電話対応からフォーラムやメールでの対応に移行し、一部は学習者間での解決がなされた。また、「課題提出」「相互評価」のトラブルも減った。オリエンテーションの開始時期を開講3週間前に前倒しにしたことに関しては、学習者から「十分な時間があつた」「負担ではなかった」との意見があり、「一度オリエンテーションでやっていたことで戸惑いは少なかった」と評価が得られた。結果的に、学習者96名中6名（6%）が当初の受講計画を延長し、前回（20%）と比較して改善がみられた。

4. 結語

本研究で得られた知見として、不規則勤務の看護師には非同期で情報が共有できるフォーラムを含めたコース設計が適しており、フォーラムの実施機会をオリエンテーションに含めることで活用が可能になることである。また、看護教育制度の違いに伴う学習経験の差があっても、コースの実施前にコンテンツを実際に経験することで、moodleの操作能力の獲得、意見交換能力、学習管理能力が補足されることも示唆された。課題として、現状ではオリエンテーション期間内で学習目標達成に関する評価が不十分であり、今後は、オリエンテーションの評価を実施した上で再度改善を重ねる予定である。

参考文献

- 春山早苗（2016）特定行為研修におけるICTを活用した教育例集「平成27年度改訂版」。平成27年度厚生労働科学研究費補助金報告書、3-24。
Havighurst, R. J.(1972) *Developmental Tasks and Education* (3rd Ed). David McKay Co, .

	2015年10月～2016年4月	2016年10月～2018年4月
オリエンテーション実施時期	開講1週間前（2015年10月） 開講3週間前（2016年4月）	開講3週間前
対面オリエンテーション時間	2時間	
moodle上のeラーニングコース		
ニュースフォーラム閲覧		○
フォーラム利用		
自己紹介	○（2016年4月のみ）	○
フォーラムでのコースに関する質問		○
ファイル閲覧	○	○
課題提出	○	○
相互評価		○
小テスト実施	○	○
アンケート回答		○
Home画面のカレンダーで、提出期限を確認		○
チェックボックスの確認	○（2016年4月のみ）	○
受講計画立案	○	○